

もしもピアノが弾けたなら！ そして もしもピアノが止まってしまったら！！

<令和5年度 合唱祭 閉会式あいさつ>

これまで、合唱はクラスのみんなの『心をつなぐ』にする大切なチャンスのある場であると話をしました。

私が教員なりたての時の、あるエピソードを紹介します。

合唱コンクールで、私の1年生のクラスは『君をのせて』という合唱曲を歌いました。ピアノ伴奏者をやりたいという子が3人いたのですが、クラスみんなで話し合った結果、他の場面でなかなか活躍の場をもらって機会がなかった子をあえて選びました。でも、その子は、3人の中では、ピアノ演奏の技術が一番未熟だったのです。

実際、練習中に何度もつまずいたり間違えたりして、中には不満を言う生徒も出てきたり、本人も何度も泣いたりしたりすることもあったのですが、何とかクラスみんなでお互い励まし合って、満足いく手応えのある作品に仕上がって本番を迎えました。

ところが、ところがです。歌っている途中に、ピアノが止まったのです。一瞬唖然としました。ただ、止まったタイミングが不自然な最悪のタイミングでなく、すぐに持ち直して最後まで演奏してくれたのが不幸中の幸いでした。でも、演奏後、伴奏者の子は責任を感じて泣きじゃくるし、周りのたくさんの子が慰めたりして、本当にたいへんでした。

その学校はコンクール形式でしたので、審査結果が発表されました。実は、ピアノが止まった致命傷があったにもかかわらず、学年8クラスの最優秀賞に輝いたのです。先生方の代表10人くらいが審査にあたっていましたが、審査委員長の校長先生からこんな言葉をいただきました。

「ピアノが止まったのに、誰一人動揺することなく何事もないように、逆に『気にするな。任しておけ。ピアノ頑張れよ』というクラスの雰囲気ひしひしと伝わってきた。感動した。まあ、練習の時から、クラス一丸ですごい頑張りだったからね。」と。各クラスの練習風景を、いつも小まめに見て回って声がけしてくれていた尊敬すべき校長先生でした。

今回の合唱への取組を通して、自分やクラスや学年や学校がまた一回り成長を遂げたかどうか、もう一度一人一人冷静に振り返りながら、また明日からの学校生活に生かして欲しいと願っています。

各クラス、すばらしい演奏を本当に本当にありがとう。